

第 22 年度 事業方針

「これからの新しい子どもの育ちの環境づくりを模索し、
次のステージに向けて進む一年に」

子どもが安心して過ごすことができる環境はどこにあるのか。年々自然災害、猛暑が活動に与える影響が大きくなり、年度最後には新型コロナウイルス感染症によって活動自体の実施が難しい局面が増えてきました。NPO 法人化した 20 年前は、会費・寄付を中心とした自己財源と会員やボランティアの自主的な取り組みによって事業が成立していましたが、現在は行政からの公的な委託事業や補助金なども活用した事業が増えました。そのため民間でありながら公的な側面もあり、「私たちだけ」のことだけでは活動が実施しにくいことが増えました。

しかし長年続けてきた活動や山科醍醐地域でのつながりの中で、普段からの日常的な交流としてどんな局面であっても出会ってきた子どもたちと過ごすことができていると思います。もちろん十分ではないですが、緊急時であってもできる限り「いつも通り」を届けられることの凄さを「積み上げてきた活動」と「子どもたちとの関係」から感じることができました。

一方では、やはり「学校が休校」、「イベントが中止」、「普段過ごしていた場所が休館」ということにより、「安心した日常」が失われた子どもも多くいます。すべてが自粛や中止となったとき、あらためて子どもが安心して過ごし、育つことができる環境をどうつくることのできるのか突きつけられているようにも感じます。

新しいチャレンジ、やりたいと形にできる組織として活動としては、様々な事業で運営がうまくいかない事業が増えてきています。子どもの参加、子ども・家庭の事情、活動スタッフやボランティア参加してくれる方々の状況、活動資金問題など理由は様々ですが、長く続けてきた活動が昨年度はより縮小した形での実施となりました。また事業間交流の不足、事業担当者の固定化（新しく事業をやってみたいという声が少ない、実際にアイデアがあってもどうやって形にしてよいかわからない）といったことから、多様な世代が集まる組織にあって、「やりたい」を形にできるよう、事業間の交流を通じて、活動の提案やチャレンジができる体制にしていくことを望む声もあがってきています。これまでの形での実施が組織内や外的な要因でも難しくなっている現状において、外的要因に左右されない活動の場の確保と、これからの時代にあった活動の形を模索し、取り組んでいくことが必要だと考えています。またあわせて直接人が対面で交流する活動が難しい状況があるなかでは、オンラインサービスなどを活用した発信や交流なども取り入れていく必要もあるかもしれません。団体設立 40 年、法人化 20 年の年である 2020 年から次の展開を見据えて、昨年度取り組めなかった点について重点的に取り組んでいきたいと考えています。

ポイントとしては、昨年度からの課題も含めた以下の 3 点を中心に取り組んでいく。

1. 子どもたちとともに「やりたい」「できる」から活動を組み立て直す（小規模事業・新規も）
2. ひろば内外でのどのような育ちの循環と文化を醸成するか、子どももおとなとともに創造する機会づくり（言語化・事業間交流・地域交流）
3. これからの時代に応じた運営の見直し（オンライン・基盤強化：事務局体制見直し・活動拠点の確保と充実）

第22年度 各事業計画

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
舞台芸術 鑑賞活動	演劇部ぽっぷ・こーん公演	-	-	-	-	-
子どもが 自ら創る 体験活動 事業	こどもフェスタ 当法人主催の子ども主体の 「祭典」を実施する。	4月	本願寺 山科別院	150	地域の 子どもと大人 700人	450
	わんぱくクラブ 幼児・低学年の子ども達を対 象に、舞台鑑賞や野外活動 を実施する。	通年	地域一円	10	地域の子ども 30人	205
	山科醍醐こどもの創作劇 単発のワークショップ 演劇部ぽっぷ・こーん 小作品の製作・公演	通年	社会福祉法人 同和園、勸修 寺公会堂他	2人	地域の子どもと 大人 のべ150人	330
	町たんけん 地域を知り、その中の出会い から人と人がつながり、より 良い地域になることを目指 す。山科かるたや、ガイドブ ックを普及させ、有効活用で きるように、小学校を巻き込 んだ活動を行う。	通年(小学生と の町たんけん活 動は夏～春)	地域一円	10人 (スタッフ・ ボランティア・ 講師)	小学生15名 ガイドブックや ノート(報告書) などを児童・区 民に配布 学校訪問参加 児童数約100人	330
げんきスポット0-3(ゼロさん) 未就園児を持つ親と、その子 ども達のサポートを常設会場 「げんきスポット」にて実施す る。屋根のある公園を目指 す。 自由来館尾サロン 講習会の開催 ※京都市の委託事業	毎週火～土曜 日	げんきスポット	9	地域の 子どもと大人 のべ7000人	6789 (委託金 6519)	
	つどいの広場施設を飛び出 して ①あそびっこクラブ 未就園児を持つ親その子ど も達サポートを野外や体育 館で活動。 ②出張広場 未就園児を持つ親と、その子 ども達のサポートを常設会場 を飛び出して行うサロン ③地域とつながりを持って おでかけ活動 ※京都市の委託事業	通年	地域一円			
	楽習サポートのびのび 集団活動が苦手な子どもや、 学習機会の少ない子ども、ま た経済的等の理由で体験活 動の機会がない子どもへの 個別(生活・学習・余暇)支援 事業。	通年	地域一円	40人	地域の子ども: のべ220人	-

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
子育てサ ポート事 業	子どもの貧困対策事業 集団活動が苦手なこどもや、 学習機会の少ないこども、ま た経済的等の理由で体験活 動の機会がないこどもへの 個別(生活・学習・余暇)支援 事業。 ※京都地域創造基金事業指 定助成事業	通年	地域一円	40人	地域の子ども: のべ200人	4500 (助成金 4000)
	山科醍醐地域ひとり親家庭 等への生活・学習・居場所サ ポート事業 伏見区醍醐・小栗栖地域を 中心に、小学校高学年の子 どもとその家族へのサポート を行う。 ※京都府委託事業	通年	地域一円	40人	子ども: のべ220人 保護者: のべ15人	8350 (委託金 8350)
ボランティ アサポー ト事業	ボランティア・研修部 ボランティア希望者の、各事 業へのコーディネートを行な う。 ボランティア活動に参加する 際の、子どもとのかかわり方 や、参加者が希望する内容 の研修会を定期的実施す る。	通年	当法人事務所	4	—	—
	講師派遣・インターンシップ 受入事業 当法人スタッフの講師派遣 及び当法人におけるインター ン希望者の受入を行う。	通年	地域一円	4	—	1,000
	のびのび@たいむ のびのび事業の利用を終え た高校生等の居場所とボラ ンティア推進事業。	通年	地域一円	5	のべ60人	—
広報・出 版事業	コッペパン 広報誌「コッペパン」の発行	季刊	—	2人	1000部4回	—
	ひろばつうしん 会員向け情報誌「ひろばつう しん」の発行。 イベントや活動の参加募集チ ラシ、外部団体のチラシなど も発送。	月刊	—	—	150部を12回	—
	ひろばの本 「貧困とひとりぼっちのない まち」の頒布を通じて、ひろ ばの広報や社会への啓発を 進める	通年	—	—	—	—
	サポートBOOK 「子どもの貧困課題に地域で 取り組む支援者のアクション サポートBOOK」の頒布、活 用。 読書会の開催。	通年	—	—	—	—

	事業内容	実施日時	実施場所	従事者 (スタッフの 人数)	対象者の範囲 定員 参加人数	予算額 (千円)
広報・出版事業	ホームページ 当法人におけるホームページの定期的な更新情報の発信及び、基本情報の公開を行う。	通年	—	—	—	—
ネットワークづくり事業	分野連携ボランティアネットワーク事業 当法人登録ボランティアと子ども分野の活動団体とのネットワークづくりを行う。	通年	—	—	—	—
	山科子育て応援団 社会福祉協議会を事務所として山科で子育てサークルや子育て支援をしている諸団体との交流を行う。子育て支援サロンを開催する。	5月 ～ 3月 年間10回	社会福祉協議会他	13 (ひろば内3)	のべ300	—
	遊びのアウトリーチ事業 小学校の放課後に、大学生や地域の方と遊びを通して、関わる機会をつくる。	通年	地域小学校	1	のべ30	25
	勸修中学校区 こどもの学びサポートプロジェクト 山科青少年活動センター、山科区社会福祉協議会、勸修中学校等連携事業	通年	勸修中学校区	2	京都市立勸修中学校の生徒 30名	200 (助成金200)
	中3勉強会(おぐりす・だいご・醍醐支所) 生活保護受給者等中学生学習支援プログラム。 ※京都市ユースサービス協会再委託事業	通年	醍醐事務所 トトハウス 醍醐支所	30人	4人 4人 15人	2706 (委託金 2706)
	みんなの家 フリースペースとして開放。 (主催:社会福祉協議会)	第1、第3、第5 月曜日	子ども生活支援センター	2	—	—
	企業との連携 企業からのボランティア体験の受け入れや、イベントでのボランティア呼びかけなど。	通年	—	2	—	—